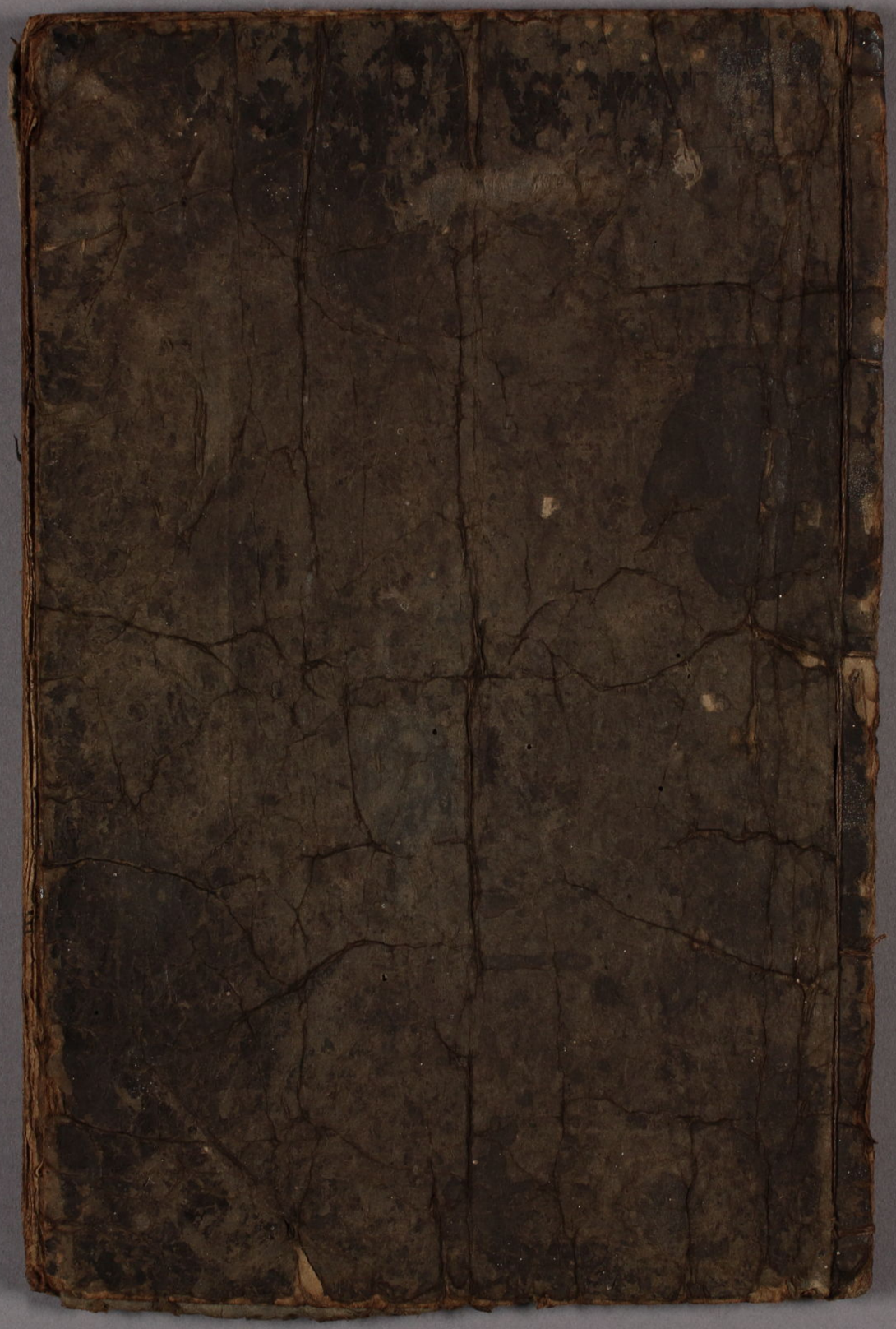

礼物紙上

神宮文庫

普天下に生れ、幸出乃内といひあつ〳〵名古屋国
と栄とゝ申まれあり。亜滅と月ざ〳〵むさいと仕候
事ふ申りし八重に漢字とものさて九重に成とゝ
つ志いと世間ありしは毛月の来たりてこゝろうと言
伝りあり。彼へ史。むしーハ実〳〵とあり〳〵山賊海賊みち
うちて往来おとまり〳〵なし〳〵今代御代よいうりてへ
万民一同よ心もとふ用なれとゝ以ゝ礼屋ゝりと親ゝ

れば、こゝ心やすくゆりうこれ荒鏡の御代我朝の延
喜の御代も是まはまーさられば人としてハ類なしとゆる
とゆゑ事勿論あり。とこゝる今まれやうにおりひ
あるりり上一人聖なれば下万民その徳よ和して。
ゆゝ寺社とあがめそれまつりごとのうたよ世
ゆさうなりゆ改ゆ上ハ有頂天下ハふらく十方三千
大千世界ゆもおまゝ通ー。弥陀佛の感恵も
さぞうへーとおりひ願ふゆまこに来百代ゆても。
めでたかるべーゆる祖ふ振ゆれまづらひもなく
ゆよくゆくさぬ先内裏へまいりゆ。ゆーゆ

ゆり。ゆ中と。一見するに。ゆこと。ゆ。ゆ
ふ出。ゆ。ゆ。ゆ

うれなどうらうらきぞ上臈あまたさかりまいぞまことに
にぐんすそのきのもぐ。天人のあまぐり給ひてれば
あぐさみとぞうさがるる給るこころよ年は比十七八だら歟
上臈さうさせんとれるとそ給へ糸をもくへさうもとひさ
なりしごろひ給ふ法華経かるわう部んぐもを見はいそ
ぬうらべしうこひの其小方未生以前ぐやみまの
よ給れ因果ふ波羅蜜ぐたちやだんでとうこひちあ
給へだそだる上臈れおるせらるいだいまれこうこ
さかりそめのたくふまこと〳〵いひぐぐぞうる人の給り
給ふらんを離さとへなりぞ給ふうさ世を楽しる

よ月ふ雲毛ふ風おりよりにおうざれだ泡とれ〳〵来
生以前おこそぞまとなりれ毛りつけてもだぐさ
給ふれ日数を送り給ふ年。あさまのき法華なり。
右方よも。世の中ハ市れかり屋の一さそ紀雅と弾ぬ
ぬぐれの空とぞめり嗚呼泡とるるれ〳〵。老ぐ
離苦れそのこうりぐれうのぐ法ぐやうれるを空
よつけそも我も人も禅ぐりきを法華ぐりかぐ〳〵
いぐ〳〵おぐめされらんやとのくまへで。方へ上臈の
まるそこるは未来といふるをいぐとたがりめ
いや。地獄とそきひあらむで極楽他毛よのうず見ぐ

玄八范秋の月をもてあそびふるも華もそのまの
ひ給会のきわと拾ふとやなりあらぬ中よ心か
ゆ給ひそとをしうば。たゞ方八三世をきき拾と
ゐ給ふ。ひつ始人より習ひのふ庵ゝん。やもり玄地をば
山河大地人畜草木。拾とゝてゆ。できゃゝうんやとおり
ゐれど　はぞんゞ。ゐゝゐ。猶て。ゆ。せゆゝさん。開闢ゆお
ゐ天をなゝ。地をなゝ。我もゐゝ人をなゝ。玄相玄一
拾ゐりゝて。ゆ。拾とも。だ拾とゝ。ゐつけゆゝゐり。拾ゐる
ひだ拾動ゝて。陽と生ゞ。ゐゝ。これと天とゐんぜゝ。陽ゐづ
まりゝて。陰と生ゞ。これとゆとゐづゝ。其中に人ゐき

ゐり。色と天地人のこゝ。如とはゆなり。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。
はぞんゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。
何日一理ゐゝ。ば第拾一やうにそゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。
生ゐ一切の法法とゐるに。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。
それゝゝ種ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。
ゐゐ。一天下の主。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。
愚ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。
ゐゐゝゝ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。
ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。
種ゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。

どぞ[illegible]れけまバ　答曰不審なり[illegible]
ちゐ[illegible]めされんは先理と氣とかゝるべ[illegible]
ある人へ[illegible]見と理とかゝるべ[illegible]大小ある下ハ善惡差別[illegible]
あり[illegible]ども一理天より下て[illegible]法と成時質[illegible]
やうにより[illegible]ぞ[illegible]とゝろ[illegible]
降生民則既莫不與之以仁義禮智之性矣然其氣
質之稟或不能齊と云り大学の序ハ云自天
命以降[illegible]
あるべ[illegible]なれ入まゝ[illegible]
[illegible]れ人ども[illegible]一水[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

理と氣とは一物なり獨立して自然として理は清く
義法よそれ濁り氣を見れば清濁あり
濁るもこれなり義法乃ち不正とも
とうりの氣乃ち天地ひらけさかんの
もの理をかくるるなり
氣質ばかりにより天地の下善惡美醜別ある
ものなりとんぬ
問曰理と氣と一體なるべしそこ二つ
なりやいなや
答曰理と氣は黑白のごとくなれば
理を一水にたとへば氣は黑白のごとくなれば
いや大極動して天地義法乃ち物こと
ふ時は理と大極よ方物をかりうるおのおの
あるひは氣と大極よ方物をかりうるおのおの
ゆきんまで儒道ふくさだ理一氣陰陽五行木火
土金水とつれるなり一理の德なり一理動時は
氣とえつけ
ごとく時は理とかり陽とさんば
木火土金水則五行なり陰陽則一氣一
氣則一理なり二乃一理動くごとく陽氣
といひ陽氣夏とぬくく陽きはまりて陰となる
陰のくごとくあと秋といひ陰きはまりて冬となれ
陰とさんば義交秋冬とともに一理のくなり理と
氣と二つあるように心ぬるはおのきとぞんじ此一理

のてのべやうの善悪差別ハ大ふる下賢愚貧福法
也法相皆こゝ自然とそふりてこゝ邪ハ正して
万ゆり万ゆて一るれど一るの万ゆ母なり万ハ一ゆ万ゆく
あるゝやゆゝとゆふけて理の差法よ通るけも
ゝも氣質れけやゝゆゝむりあるひ法ハゆろう
るゆうゝとあのさて大極ゝゝに統て無ハ無者あり
一つ大易二つ大初三つ大始四つ大素五つ大極也
太易　質也
太初　氣也
太始　形也
太素　器也
大極兩儀ゝゝゆあり兩ゝは陰陽ゆあり是ハ
天地開闢ゆるなりゆ是象ゝゝゆりこれハ太陽
太陽小陰小陽ゝゝゆる也ハ是象ゝゝゆふゆ
乾兌離震巽坎艮坤ゆハ卦ゝハゆりゆハ卦ゝ二つ
にゝけて十六卦ゝゝゆりゆこれを二つにゝけゝ
ゆ三十二卦なりゆ是ゝ二つふゆけゝ時六十四卦場
ゝハゆりゆゝに多ふゝゝ金ゝ成
ゆ大極ゆ一理ゆりおよゝゝ理動く時ハ氣ゝ
ゆ付ゆこゝゆ時ハ理ゝゝゆるれど理ゝ氣ゝ二つハ
ゆきゆりたゝゆ砂唐ゝゝゆ法ゝゝゆゝハゆゝ
ゝせんゝゆ黒ゆ砂唐ゝゝゆりゆゝゆる砂唐
をゆせんゝゆ白ゆ砂唐ゝゝゆる和なり是ゝゝ

せんじゃせじ氷砂糖よりなりのごとくにそく成。
白く成ぬるがごとくなりゆえ凡夫ともなを来ハ唯一つ其さびと
ゆえ業なり。とろうなる人ハせんしゃにしたがはせく
るなりのとそうなり。おもひ絶べし。絶ども本有と業の
弁よりとろくなり白くなり。氷と成つき性なくハ何と
せんしゃとも。とろくにゆえ成ものあるまじくしかれども
大悲一理の水よ善も悪も弘通相応ことく。
自然とそなりて差別なし。合して混ぜ
どうしてもそのもとそのの弁を不思議不可得の理や。
法一理と仏説とも真如とも寂光とも本覚とも

中末の両門とも本不生とも法身とも
一つの真如縁よ随てゆえ方法とあるハまた時よ随てゆえ一つ
の真如なり。一の方法よ遍ぜんと欲ず。一の方法よ遍真如とハ
ゆえ業法一よ帰すると不遍真如とハなり。一度ゆえ弘
願とあるハ一度ハ彼れとひとそれで彼三世一乃全躰。
願よ乗ずるの心行不滅るれで妙法とハ弘願なり。
ゆえしかるゆえ凡夫ハ法かてん業なりゆえまずしかるく
終てさうせやうん抑五天竺ハ大王浄飯王とゆたて
まろる。妃とて摩那夫人とゆなりうれたるこれ
附ぬ人七歩踏で天上天下唯我獨尊とは唱へある。

こゝに不思議の量なり。十九の年出家をこれ
三十の年説のまゝ。花厳経とゝのへり。三七日に説給ふ。
次に十二年説給ふ。阿含経とゝのへり。次に十六年
説給ふ。方等経とゝのへり。次に十二年説給ふ。般若
経とゝのへり。次に説給ふ。量義経とゝのへり。次に八年
説給ふ。法花経とゝのへり。次に説普賢経
とゝのへり。次に一日一夜説給ふ。涅槃経とゝのへり。
本来合て五十年に説法なり。釋尊は入滅の後。
迦葉阿難二人の羅漢とあつめ五十年に説法と。
書たるこそとゝきのおもはれ。次に一千年仏法よろこぶ。

五天竺よりひろまり。次に漢土へ渡る。漢土へ渡る。
帝永平十年に月氏国の沙門摩騰迦竺乃二人。
経教と仏像とおもたり給ふ。時に唐一天下に儒者
あつてひろまり。次に西月十五日に儒教と仏教と
と左右よつて火をとりけさんとそ。西
法とさしあつ東西べしとおもはれ火をとりやきこの
よ儒教皆滅し。仏教ばかりをこそ焼ぬ。故に明帝
るゝおもひめ。我が国へひろめ。唐国百済より渡
ひろまり。音年修をこそ。我朝へ渡るは仁王三十
代欽明天皇に代なり。日本へ小さるれど。異ちく

ことの始めなり。されば中に住壊空劫とつくるなり。
あり。それは天地生滅つる也。第一は成とつくる天地始
相出来りなり。第二は住とつくるなり。ちづまりて住
とつくるなり。第三は壊とつくるなり。やぶるる不
とつくるなり。第四は空とつくる滅して虚空相なり。
をやぶりかくれてくうとなりて空となりて成
なり。住とつくるなり。壊となるなり。
くとまる相なり。天地始相なり。神有也
あるべし。言ふもこのごとく有言乃二色にてさだまれば
中道なり。相なりおやまりて言ふちづまりのもと

有と云ふるにもあらずとなるすのあれば。言と云ふなり。
これ皆方便なり。中なり。有言は邪見と破ちく
中道言実は中理と教へんがためなり。相天地始
滅ハ物のりて。物。物の相のりて滅と云やうふ
よ人寿八万歳と始し。百歳より一つ減じつまり。
十歳よりまたまりて又百歳より一つのびくのびて
ありてハのびやうに二十物滅みて。又ハ海壊
海なり成も住も壊も空とくく。一神
ちく。中来中有と言作ふるまへるなり。相天
まてハ元亨利貞といひ。人よりてハ仁禮儀智

ゆゑなり。節は成り時は芸文秋みなとゝまる。方角は北に成り東に住は南。壞は西。宮は中なり。五行とは時は成は木。住は火。壞は金。宮は水なり。又色は青は黒し。味はひとは時は成は酸。住は苦。壞は白く。宮は甘し。味はひとは時は成は酸。住は苦。壞は甘。宮は辛なり。又五義とは時は成は肝の義。住は心の義。壞は肺の義。宮は腎の義なり。極中央は脾の蔵は何の義なるぞとなれば。たとへば家を作りて色は東に見る者なり。西は東に見る者なり。小は見るとなり。時中庭は東なり。まるう者小なり。東西南北なり。時は中央脾義なり。中庭は東なり。色は黄。味は甘。五の中なる五色脉なり。中央脾義なり。心肝腎肺脾命門は六脉とゆゑなり。五は脉の中なるなり。命門は六脉とゆゑなり。五は脉の中なるなり。命門の脉は五つの脉のかまとあるなり。中なるもの。すなはち中央なり。有は有なり。有は有なり。有は有

皆これ一心のなりあり。一心は本来本有と。即空即
假即中。性二性一の理あり。色とこころとこれなり。第一
おやまりあり。ぞうけるとより〳〵はぐくんまなび
と繰り返へし　同日。我ぶが色は天よりもこそてこば
地よりもいそでど。父母和合の時ぞきやと思へこそ。
一心よりかこもあり。つくるこそ。父母和合
あることもいそきやへ。父母和合あること。生
こそ若と。他へてもきうずぞうけたこと。番沢
少人とありそれど　答曰。不審なりぞこもいできぞ
ぞ。分てへ胎卵湿化の四つあり。第一は胎生とは

食和とうこうてこらふ者は。我こそ神と生こそ。
人間牛る犬猫の類なり。第二は卵生とは答和
とかこうげこそずこうこうふ鳥は卵を生むこと。
鳳凰の類なり。第三は湿生とは湿化ある示
りぞきや一切の虫は湿化と生
や湿化ともこうす。父母なくして虚空よりあ来
や出なり。大唐にはたこ公間又は他仁麒麟鳳凰
皆化生なり。我朝にて八丸天神こそ化生
山幕河の幕。皆化生は出来出来なり。こそ父母なくして。
あ来や出来。一こうにあり。すぞ。ぞうなり

ゆくすゑなり。極秘の色法は父母和合して生じるに
もあらずして不和合ゆゑに生じるなり。
みてたりとも不和合なるばかりのゆゑ父母和合さへして
せざる生をなさざるゆゑなり。
あゝ一代夫婦ありて子を生せざる者あり。又
夫婦となりて五年十年婚ふて生じざる者
もあれば一色ゆゑなるべし。必定なり。
母和合なれば生じ生せざる者もあり。
愚なる所なり。あるべきやうなれども家を
よ。法乃具とあつめ地獄に堕ちるべし

ゆゑなれば主人ありて識ざす時家内家中
みをきくに指南をなすべし。たゝ立とたのゝやうなる
母胎内と備るなり。地獄のごとし。父母は媒と備る
なり。法乃具とあつめるごとく父母和合と孤よ
りて立をたのむごとし。指南とも過去
の作業なり。善悪善根となるべし。人はその因よ
りなるべし。富貴なるあり。慳貪
よりて法恵とあるひとは盲目よ
り人は白癩黒癩。ものを量れ恵さかゝらと
なり。ゆゑに貧なるあり。皆父母のゆゑなり

を母の胎内を借和合と孫よりて色貪我づさ
つかりあり少よりの事にて面老あり面さ老
乃ふのさ老かり富貴成人のさ貪よりの分
もあり貪欲老れ子ガ富貴よりなるもかり貴命
法人のごに短命成人のごと。短命なるもあり短命成人のごと。
命なるもかりの色貪自業自得果なり
御る則父母和合して未やとどりの分
愚なるなりの色法と求めや時男子母
色とおの子少よ母の胎内にて内よりむ
りのあり母子ハ父よ色とてるゆよりみむる

ゐるりのあり。御よ男女ハ色孤色若と作ら会生
世ゑ持ざれどあり故生れて後よも男子とて必母ガを
孤しづかりのあり母子よハ父よ必ずしづかりの
色過去ハ色孤ある色ろ也　古今にぐきる色
若ハとづとあり八する色いうんび世とうりやうづく
ろうろ色とよくぐ。ぐんぐんあるべしとれ知ぬり
まで　同日一理一体の若ろ。ぐの色て。佛と衆生
とかりうかるに知ぬせられる。ぐ。ぐうり。佛ハ
佛衆生ハ衆生ろ。ぐの色と孫づひやとも佛よ
知ろ色べうず。たとへ凡の作るに苦ろ色

柳八郎ぞ花いとられる事とぞ申ける
所生佛ふかくなるべきこと
答曰愚かなりく有生物とは
あらんく一切の草木は物生とうれば若無
心ものもれば何のふしてかうんしうるべき
物有生物とは衆生有と十界を物
境よりひろく深よりひろしつよき方ぞ
地獄の形とも畜生偏性人乃天
上代ともなるべきとぞ十色は深
佛ともなるべきとぞ

十かうのてきゃくこそ中みく我すきぬと上
き時ふりてゆくと上にきゆあるべ中と上ふき
十代色と時くにゆ色とと上にきんと
行りくこそまくるれうが上ふりて色変と
上ふさんとありくあきいちうが面ぐて上ふ
なり色皆我一念ものすふりかくのごく色
心ふりくく道とぬ物ありて色法ぬるぬときう
ごくだが我ふがもきぬ法ものめ
ひて色と面ぬ者ものとぬ行ふる肝要也
ろにやうぬぬりみくぬぬぬまるぬぐ

上

らるゝ。ゆゑに。すべて。さうせずして。拙僧が一念うん
十界あるゝゆゑとやうさで。勢ようして。あるゆゑ
なれども。我が氣よりへざるゝゆゑと。耳より。空間ゆゑ
瞋意より。のゝと。出ゆゑ。地獄の性なり。二ゆゑ。他の畑
とりゝ。ゆゑ。我物とおもふ。餓鬼の性。三ゆゑ。畜生
なりとゝ。ゆゑ。魚肉とこのゝ。ゆゑ。色このゝ
ちゝとゝ。ゆゑ。畜生の性。四ゆゑ。詮なきゆゑ
あつまるゝ。上とゝ。ゆゑ。我慢つゝきゝ。偏屈の性。
ゆゑとゝ。ゆゑ。人間の性。五ゆゑ。ゆゑ。きゝ

まゝ。ゆゑとゝ。ゆゑとゝ。ゆゑとゝ。ゆゑとゝ。ゆゑとゝ。ゆゑとゝ。ゆゑ
ゝとゝ。ゆゑ。天上の性。六ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑとのゝ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
八ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。

三千とかり開てゐられで千方三千大子世界即
秘ふぐ一会なり。逢ひの業ふこれとをくさぐ必
よ。前生ともに凡夫ともやうなり。実ぬ式由と
なるべ。一心より業法あまてでんる地獄
源より降てだこうかり。地獄ぬ言つよられでこれが
大将ともかて地獄のくちをぬくと
却て役といくをで役乃九界ハ裏ぬくと下人ぬで
志。鍼鬼ぬ意ぬくよられでどが大将ともかて余乃
九界ハ裏に如くと下人ぬでとも。畜生ぬ意強ぬ
畜生ぬ形と役り。ぬ人ともかて。余ハ下人のごと

乃至脇羅。人間天上菩薩覚聞薩佛。仏ぬ
もつぬ方がぬとかくぬ弱さハ裏ふ如ありた
とくで陰中に陽あり。陽中ふ陰ぬくがごく。
火つのき時ハ水ハ裏に如くく火表役とくすぬ地
水強時ハ火ハ裏ふ如くく水表役とくすぬたくで
釜ぬ内ふ水と入て火と強くけで内ぬ水と。
ぬのハ火ともゆうず。地ふもりまでで火の勢つよき
ゆへ火ぬ内ぬ入りて火の勢つよ
火ぬ引ぬるなりぬ火ハくくとあくでの
つぬゆへよ。水ふくで内ふ入り。水と

合とは分別なつとさ方ぐ春と如くくよりきは裏に如也。
かれどく一合れ作るとき方ぐ春と如若かれど義
るとつけて作るの所あめとかくれられど。
同曰心は佛も業の薄もみるくるんぞ繪像
本像とおどく繪彩とるみるは喝るとせるとな
とめられるや　答曰玉ぐくされど光り紙
は深るる色とます。心は水昌れ玉とるの門は央
るとくいども孫はあはざれど央もるもいそと。
日天ふは合まで央あ月天ふは合れどるあるご
く我ホ乃生は吾明れ孫はさそれ一心より西

とあ。我と我身とそるひ。へとそん
さす。佛は法推れ孫はより善心をあ。一切衆
生ととそひ作るより。孫は水央一神如とくども。
あるれ出まで央は神とそんさするは神となく。
ものまどそ央は形るてはけ。かきは
かのごく我ホ乃生はまれ部とあ三界央宅を
すとと。多々瞋意乃のとにもえ。ごれつ仕へ
ど佛の智水とけ今ひ生ふ。瞋意れのと。
け央宅とあ。ぞんどへるの西に央宅とあ。べ
さやとかくれそれど　同曰我ホ心と西とあ

て苦しずとやまへあらずや。孝とは人道
義とて礼とをみそりにせぬ。何ぞ
信とりつくわたこうへ。ぞくしよの礼儀うあん。
神記曰。心こんぽしれ道よかるひそぐいのこぞん
も祇やゆもらんとぞ。時ハ業ず。信ともつくあと
ひやさで祇の出国ちやうにあよぐび仏
の出国ちやうにもぞうひべーぷよ。何の儀うち
あらん愚如りとやきれそれど　答曰。ちなり。
たれのはんれと通ちきとやまへあらず。仏教の意
とぞりしく儒てきちせやうん清浄法ゆとも儒者

我遣三聖化彼震旦と説法ぞ。金言ぞ。三聖
漢土よおのこ二人ハ孝子。二人ハ顔回。是三菩薩
なり。仏の勅命とうは漢土よお。仏法ハ魁と
なりぞ。日本ハ仏菩薩神とぞ。ぞ
ぞ仁義ハ道と教ぞ。儒道。儒道神道
共ぞ同意也。法則ぞ神道。儒道ともあれ。
仏教と別ぞ。ぞ神道儒道の意ぞ
ひのぞ人ぞ。ぞれぞ。ぞ儒者。仏教と
にて。仏者やて。ぞとあやまりなりと。ぞ儒者
つまり仏者とそたり。ぞ我慢とぞ

我も人も。孝の道を行ひ給ふ也。今時の儒者と
見れば。然慢山のごとし。大海より深し。親に
不孝をして。貪欲者は。目の下に見て。富貴の人
をば。あなどり。ひたまへ。学文をつき。老あれば。書
は。何程五經は。何程と。漢籍は。直段をさだめ。金銀
をとり。男をかたり。家屋を義にして。義食義
如とこの。不孔不義也。佛は。光王は。家屋を。貴ぶ
きれたるのゆへとて。あなどり。ひたまへ。聖人の
も。同事なり。顔淵花ひやうしんをあと。食をあく
ものとて。枕をしてたのめり。

御則は。道は。あまねく。今時の人々は。明の酒より。醉酒
かはりて。汁飯さへ。ぶりかへられ。也。かの醉狂人と。所
詮より。式ふるまひと。ひとつ。ひとつ。ひにみ。さつ
なりして。愚癡を。智恵男女。佛祢とうやまめ。佛教
と。なたる。草双紙。ばかりを。ひおそるべしと。儒佛一ちふ
釈迦。二世のたとへ。ひおそるべし。儒佛一ちふ
てかりなるものあり。釈迦。ひとり。五戒と。統
ふは。儒は。五常と。吳。孔同。也。八十善戒。不
殺。不盜。不邪淫。不妄語。不飲酒。五戒。義。禮。智。信。
意とおさめ。家とおさめ。人と。国と

おしへ。天下と称するなり。さて後に羅漢
と菩薩となるなり。菩薩とは。その〳〵ちまの十方三千大千
世界にすむ。久遠よりこのかた。末代のすべて塵
窟とうけ地をくだき。世界を微塵にくだき
つゝ。自宅自生にかゝるなり。
かゝれなると我ごとき愚癡無智の者をも
ゆるしかぬやうにおもひまとうとも。佛の滅後
彼教とうひてこそ理よりかゝるべし。民漢土我朝
よりその教へ。民漢土にあまた。我朝にては
聖徳太子。傳教大師。弘法大師。慈恵上人。解脱

上人。此二人は春日の系統。
うまれ。佛法。不思義あるべし。天下
かゝれるけもたぶさに。ふかひとをもたれ
同日。初紙たれ。指よりとも。今時の家は愚癡
智愚男女とあつまり。ふかりつけ金紙と
名字とりたてゝ。男とかゝり。佛菩薩のていと
こそ。斎食をこのみ。義女とあひ。極楽浄土
へ。とゝ。引接さんとやされ。かゝれよ。釋迦
の教へ。不審なり。
我慢。慢欲。

と。引導よ者くぶりとあく和とやられそれで
答曰。此義なり。かの花のすを安よ付ぶるに付
給ふ。きハ佛法なり。さ三さいと給て世ア
うん大集經とやハ佛未来記と號ず也なり
佛入滅の後。五百年とて解脱堅固とぐ。此言
よ言人無人ありやうとぐ號ず。金言のごとく。次の五
百年ハ禪定堅固。此時節のう花金言のごとく。
次の五百年とて憍慢堅固とぐ。此時言ハ花
金言のごとく。次の五百年ハ多造堂寺堅固とな
ぐ。此時言ハ說者藥王等南岳天台とぐ。

陳隨二代よおすぶ。金言ハ
闘諍言詔白法隠沒とぐ。上合二ぐ五百年也。
也とぐ加ぐ五百歳とハやぐ。此時ハ中ハ白法隠沒と
ハ法ハ今時のうなり。人ぐ意論曲して顛倒を
べしと說ぐ。金言ハ也。
立家ハ武家ハ在家とぐ。武家ハ在家とぐ
ぐ也。鼻ハ切とぐ。道とぐ
仏合ざ所ぶ。ぐとて。所人多。高貴よ
ハ妻子と乃世棚よ。ぐ。男ハ女とぐ。
女ハ男とぐ。ぐ。愚者とぐ。不孝不義也。

愚者ハ道と申ぐんとも之あり家に在家しかりなり学
と申して学つゝいあり一生家ハ名聞とて海
に入道と称ぐんとも有りやうに顛倒とぐこと
と仏に称て去ろうめして二子音年いあり。あ
況わり世俗金言ものもちぐハざれバ仏法ハいつゝ
ろ雖ゆとえられど　同日法どもたゝへで船よの。
よ船に乗て船とのりそこへで船中に老
法ゝ。命とうふのかりかゝのごゝ。
今時ハかゝき場をとゞ導よ彼てゝとゝく
ねんとゞられで　答曰愚かり凡夫

不浄ゆゝもゞ凡夫に入ゝ人ハ法ゝ必ゝ法ゝ
ゝかゝのごゝ。但仏教と船仏の法ゝ
と船以よ彼ゝたまハで。ゝひゝ。彼ゝに
法ゝ。仏教ゝで。ゝ乗ゝ法ゝ
いゝゝ。いゝの人凡夫赤人ハ憤法ゝ奇と書付
ゝゝと今ハよて乗ゝ法ゝとゝ
ゝゝゝ

なぜそしりつるまでもあるべきなれども方便を
もつてさとしたまへれども方便品の中の
中に無上道の中の中に無上道
の中に無上道の中の中に無上道
さいしゝ第一に法華経を讃
歎法の中の中の女人成仏
中と云て但法華経と
云て外の経に
みえる方は上品の中の
中に彼宗の我慢の慢を
云て我宗とそしつる我宗
釋尊一代の法教の
教の中の中に我宗
教の中の中に我宗

宗とそしりつるけのがれ
難は道へ入られとも
とのあり実は
みかへは上品の中の
人もとゝ
是を見ともなりひ
そしりはとゝ
ゆるりとゝ
氣ぬ人のやう
ゆるりのやう

我慢と申あ。私欲とのこゝきて目も耳も天下れ
耳。天下れ目ふりしてかんつ。さつ。ぢ。ぢ。実
の理の得ざる物なりと。かゝれば。一度
同意に。極く金言とぞ。けゝ。毎りはりの。第9
よ。紙てぐ。ぐ。ぐ。

よりて阿弥陀如来と申すなり。法蔵比丘と申すなり。法蔵菩薩とあらわれ給ふ。十八乃至十念と立て給ふ。我国人ひとへに念仏すべしと。

西方指南抄

観経文也。観経曰。五逆十悪具諸不善之無量壽経之十八之願曰設我得佛十方衆生至心信樂欲生我国乃至十念若不生者不取正覚同三十五之願曰女人変成男子と。

維摩経文殊問疾品

我未曾有如是之事。

方便品

乃至鶏の子の如しと。是は色界方便と。彼教よりて維摩経に成仏と。

法華経

一人も。

法華経

女人も。

法華経

悪人も。

法華経

乃至鶏の子の如しと。

観経之下

韋提希

五百侍女

聞佛所説應時即見極樂世界廣長之相得見佛身及二菩薩心生歓喜未曾有也廓然大悟得無

生忍五百侍女發阿耨多羅三藐三菩提心。如佛の
ごとく。必ずして三部經を成佛と。
なりぬ。
答曰。韋提希の
愚なる故。經を聞たまへば。四國の中
の人。皆一天下と思へり。
と云り。天下と知る人。皆一天下と思へり
かゝるのごとく。韋提希は觀經を聞
乃覺して。佛智と覺たまへり。
の實を覺るべし。韋提希。佛のとくの如
なれば。佛の說給へる十號記別
經とも。三部經之中に。韋提希。成佛の
記別。金ことなり。記別とは。
る。髮を。皆悉。法花よりして。成佛と得
法花よりして。成佛と。
如とは。略。海の一滴。
舍利弗。光明如來。迦葉光明如來。須菩提名相
如來。迦樓延。阿那律。提金光如來。目連。摩羅跋
栴檀香佛。富樓那。法明如來。阿難。海惠自在
通王如來。羅睺羅。蹈七宝花如來。憍陳如等五百七
百人者。普明如來。覺無覺二千人者。宝相如來。憍曇
彌等之六千比丘尼者。一切衆生喜見如來。耶輸陀

羅比丘尼者具足千万光相如来提婆達多者天王
如来又龍宮界之婆竭羅龍王はしもとめ年八歳
ましてまことの道を求て即座に南方無垢世界の
成道をとげり。経文明るし。成仏ハ法花経
をもてなを金ぶくの言葉提希はは大悟者観経
をもうみて実の覚よあるべきなり。然るに
はしたれかせられて　問曰。釋尊は世に出
よおはしまし人々も無人女人如来も皆上根上智
べ。末法今時の下根下智劣れるあり。
法花経ハかるひ。理深解微なり。

今時の愚人のこゝろ三部経おもはく
言量寿経下曰。當来之世経道滅盡我以慈悲哀
愍特留此経止住百歳。文の心ハ
法花経ハこゝろ三部経の法華涅槃の
る。経文明るし。花の経文とゝ
とゝ。答曰。彼経文と無量寿
経ハ。今時言ハ是ハ
法華百歳。心同本異訳之経よ
雙観経　同本異訳之平等覚経之下曰。我般涅槃去後経道留
止千歳千歳後経道断絶在心所願皆可得度

小阿弥陀経（同本異訳）之大阿弥陀経之下曰我般涅槃去後経
道留止百歳百歳中可竟乃伏止断絶在心耶願
皆可得度云々のごとく量寿経之経道断
絶れ文ハ偏法の始の百歳ばかりの。悲哀相為之
経者。法花経なべ。。。法花五巻安楽行品曰
於後末世法欲滅時受持讀誦斯経典上経文
云々れ心と。傳教大師扶そ曰正像稍過已来法大有近
法花一乗機今正是其時何以得智安楽行品
曰末世法滅時也云云　経釈れ。。。。。。。。。。。。
ハ経ハ法花経なり。。。。。。。。。。。。

八類の事ありとかれば　問曰。弥陀の
又弥陀之名号を唱へ申すは衆生を
すくふ。類をもつべきなり。衆生を
六方恒河之諸佛。他明よ立給へば衆生類なり。
これらをもつぐるにもとをれば
答曰。無量寿経
をしらや。弥陀仏本願とときたまふ。諸佛本願とときたまふ。
ゆゑ二つあり。一つは八願。二つは別願。
別願者。薬師十二大願。釈迦五百大願。弥陀
十八願也。四弘誓願者。衆生無邊誓願度。煩悩
無盡誓願断。法門無盡誓願智。無上菩提誓願
証也。四弘の中に。始れ三つは自覚也。第四は
四種あるといへども。第一は菩提之願と成
せばなり。前の三願成ぜざるなり。第四は願を
成ずる日。前の三願成ぜざるなり。
とのべ意楽に随て。法願と立給へり。凡
菩提の願とは。妙法開覚也。と申と云
前の三願也と。投義とは障碍なり。
根本の投義と成ぬ。投義とは。根のきはの
投義あるなり。四十八願等。菩提誓願
どもん度。どもんより起なり。菩提乃

上　三

本願とたのむまでに則 投業れば往生をえ
涌益をえべし。投業とは行とまことの
うすし。所詮如来の權實二智の六方の
法門は所詮如来の權智の方便と法門とは
なり。是とをんて法華の實之本願と法門とを
ひらくべしすたとへば幼雅之竹馬草鶏小児の
吹と喩をとりどり。父母を見て歩しりぬ。
児は妄情を風とをれたりぬ。父母の実意
よやくをれば。諸と勤ならにわすの児は意と相
ひかのうり法を又かくのごとし。法華傳取之悪取

と施設べし。諸と法門とは法門と法華とは
をれば。法と法門とをいとをしまずの。傳取之意
と法門と法華とは法華と法門とは
と捨て。諸仏本願所行仏道とをいふ
釈迦法華。一切の諸仏真實本願と
法蓮花經也。是と一切衆生とをなさ
とおもひすべ。真實之本願也。釈尊年
間に法華を說。未熟をれば直道と說給ず。
今ぞ熟をれば直道之法華を說給ふ。

たふとうとこびたるなり。法花一乗こ方便品曰如我
昔所願今者已満足化一切衆生皆令入佛道
金言ばかりにて千余年は法華経は随他意
方便の法にして。秘密実の平等大乗なる
なり。唯一佛乗なり。秘密なり。法華は
又法なり。阿弥陀仏は釈迦如来の
ようや。法華の円教。三部経の浄明念
佛の教は。随他意方便なり。唯宣べし。
ちれるとこそ
岩根とこゆかぬ月日かな

問曰。弥陀念佛は随他意方便にして往生成佛
の種なりかなしさは如何。答曰。方便品
法華よりきたるやうにて。方便品の念佛之行者
皆佛道に成じと説法ふ。菩薩品は即往安楽
世界阿弥陀佛とも。説たまへば。不審はなし。
加様の三昧の事。法華経にはなし
なり。加様の三昧とは。
とも。所令見者。
和尚開會。種類開會
會とも。不前の法華
説して。煩悩菩提。穢土浄土。

生死涅槃九界佛界皆悉各別也法華經ハ今法華
ハ煩悩即菩提生死即涅槃九界即佛界
也と説給ふと題目開會とは
也中ハ方便品ハ云一稱南無佛皆已成佛道と
ハ一稱南云佛とハ小乗教ハ小乗なり今
法華の開會ハ佛道と轉ぜり加之
ハ皆已成佛道と説給ふなり唯知識念佛之
修行ハ正法華之開會と為て涅槃開佛種と説なり
あやまりなり不前已味法華經ハ未顯一
法界妙妙とのたまへり大海ハ流
へて一味と成本の名字を失ごとし色と種類に開會
とのたまへり加様ハ法華とのたまへ
阿弥陀ハ付て三乗ハ弥陀あり一つハ三部經ハ弥陀
色ハ十劫正覚之弥陀也二つハ法花三卷化城喩品
弥陀色ハ三千塵点劫已前大通佛之時ハ
六王子の中ハ第九番めなり此時ハ法華經と安
楽ひて色と解阿弥陀ハ本となる也法華
ひて常に彩く妙法蓮華經と説給ふ此おもむき
三之卷化城喩ハ明かり法華ハ三之卷と説給へ
不審ハ有べしめさず法華三之卷と説給へ

三ノ巻七之巻薬王品ハ弥陀ノ名ハ阿弥陀仏ナリ
入。本覚本國とおらつ弥ふなり。故ニ経曰即往
安樂世界阿弥陀佛説也。三部経ハ十万億土西方
十劫正覚あこ〻ろ〻ハ天地者別也。たとへ遠中
乃九界と。悟中の九界とハ心ハ不同なり。三部経ハ
なりとハ心ハ不同なり。三部経ハ
始覚新佛。有始有量有異之法佛ハ方便の
弥陀也。故我れと唱へ教ふるなり。相法花経
みくに始ハ本有。本作之弥陀也。故妙法
と唱へ教ふるなり。法花之序分。無量義経曰

文辞雖一而義各異是也。又天台御釈云。因是経典
如説修行等者不須更指観経弥陀経等意
御釈之意ハ阿弥陀と名ハ
三部経之弥陀也。法花之弥陀也同なりと
知ル。ハ愚なるもの。たゞ経ハ
糸ハ〻きなるものしれ。
抑阿弥陀ハ本之本國とたつ。
光之部也。法佛彼國
西覚と教ふる我ハ

まさしく生死輪廻の苦を免れ、涅槃の
國と云へり。されども、衆生、愚癡の
現を以て、本来の面目を忘れ、迷ひ
めぐりて、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天
の六道を輪廻する事、車の輪の如し。
と雖ども、人身は生れがたく、佛の教に
逢ふ事、百千万億劫の間、僅に一度
なり。されば、天上・人間の善果を得るとも、
たちまち、苦しみを受くる事、果報つきて、
三界二十五有を沉輪廻して、車の輪の如
くなり。されば、三界を思ひ、

めより入て、耳より入て、身に入れて、
身より入て、八識に納まる。故に、眼耳鼻舌
身意、皆悪業を作て、地獄・畜生・餓鬼の三
悪道を受る。叶ひ難き人身
を以て、方便として、先、善人中
天上の善果と、なる道と教へ給へ。
とたのむ。次に、同居の浄土へ往生すべき道
を教給へ。今の二部の経、弥陀・観音・勢至の名号、佛の
説給ふ。玄明の睡さめ、
来不生、今亦不滅、
こゝろかと切て、三界を折宣諦宣教、
此八苦

方便土へうつし給ふ。況や実報土へ移る道と教る。
是は業障重し而往なり。況や一切衆生乃中國は
土不二の常光土へ移る道と教給ふ。是は法佛の所
所なれば。尤何程迷ひ来る中國也。此常光土と極
楽とも。安楽世界とも中也。法國土は言語道断
心行所滅之國土なれば。妙法蓮花蔵世界と中也。
法國土乃ち報土と。亦法身土と中也。故
此經と拾て。統のごとく。假名いろは女人は何に絶
佛之本國常光は。安楽世界は楽世界は乃
たのしきと。なべて統給ふ也。法身經は何程迷
の所産なれと。十方億土。西方なれは即
經安楽世界。何程佛と統給ふ也。經云經は
不經。生云生なれて不生なり。迷の一念より。悟の
念に至ると經とはなり。迷より悟に至て。佛
智生ぜざる所と生とは中也。蓮華云。一切衆生乃
胎中の人。然れ育ぶん也。法身と假名は法門の母
母即常光と。故經は即經安楽世界。
故經は即中國。他所にあらず
平國之安楽世界。のごとく方便は三乗經と捨
此法經と持あれし。嗚呼悲哉や。十人よの人の

阿弥陀と名よ申すべし。法華経と二部経と。
同りなりとおもひまゐらせ。愚癡なる。三世の諸仏の
御世に中懐一切衆生成仏の本道なり。法華経
とさしあてさ還誹謗をなす人なり。法華経と嫌
ふ人々は阿弥陀の本願を。中国へ引てきたる
ものなり。すなわち弥陀一仏ばかりの。一切諸仏の
本願を引てきたるなり。法華経と嫌ふ人は。おそるべく
法華経二之巻譬喩品云。若人不信毀謗此経則断一
切世間仏種乃至其人命終入阿鼻獄云云金言明白
なり。法華経と余経と意をなじ

如とやられひは天子と民と同じ如とやふにて
こそあれ。いかでかこれをやとやられけまじ
同日愚なり。所詮なくいかや。弥陀と者梵語。家
無量壽と申なり。無と者。宣諦。量と者。假諦。
壽と者中道なれば。阿弥陀之三字は。宣假中之
三諦也。妙法と者。宣假中之三諦よりほかなし。
法花と云妙法と云。三部経みな阿弥陀と云
なり。名のみ異なり。本のなり
なるよりて。かりなを雖彼のあり八仏菩薩とき。
かくのごとく。妙法と念仏と異名同体也

云ふやうにぞ成れば　答曰。阿陀妙法一躰なり。
理觀理用之前ふあるすや。愚なりなり。為法て
中の世界に理觀のあるは。一塵一毛各一佛性にて。
大猫鼠蝦蟇蚊蠓のたぐひ皆悉三諦三千の法
のごとくなりのゆへまで。厭ずして穢土とも
淨土とも捨べきとも云べ。和べきとも云べ。嫌ずして
生るけまじ。扨ずして佛とも云ぬより我色心三諦
三千之佛所なして。釈迦阿陀菜師等小乘異
なあるに阿陀色之三字と。三諦とは理觀理用
のあるを。天台大師は釈よ云。而二乏不二者惡病
道。不二乏而二惡病道也とぞ。阿陀。西方
而二不二とぞ。して。佛と法と一体なりとやらで
佛と云ぬ。法の異なるあるに則ぬる故也
さ佛云。大猫鼠と佛。傍と并ても若ぞ
や求實ぞ。道の法ハそもそもぞ釈迦一代の
教。佛法傍に三宝形あるを。三宝と彼らぞ
道邪見の教なべ。三宝者。佛。釈迦阿陀
菜師等。一切の法佛也。二なる。一切の法
三なる。釈迦入滅の後。月氏漢土我朝。
相三宝之中。阿陀色。佛名なるべ。

妙法者衆生本来有之法なれども衆生と
阿弥陀と妙法と一体なりと云へる人を而二と不二
と事と理と能知ざる人なり理観理開之
教は迷ふ人を教へたる人なり醫師の薬と用ひて病を
利益ものたる人なり病を治するごとく仏は法と衆生と
ともに法身なり衆生は法と同て法身なり一分一
分は法身なり或は人中天上は善果を得或は
方便土へ入り或は実報土へ至或は寂光土不二常光
本覚之悟を得るもあり皆是同法之功德也

弥陀の名号と唱へ衆生も成仏をなす
人教る一代の法種は八万人なれど阿弥陀之三字妙法
と異名同体也といへて雖彼は葬儀のみ
をきゝ法華は仏舎利を拝一日の
供養すれども此は是世法なり拘子定親とやは
り祈のうすみくらや愚なり
のすくは祈はなくれども法華経
同日法花八之巻普門品と乃ち観世音之仏名唱
やあは法華とのごとくとなる故世音は弥陀之
本身なれと唱やてさへ功德かくのごと

上

卅九

まして法師近くる。この経法妙華之ほの名と唱へ
ほつ〳〵ぐ〳〵れ功徳うあるん何そ一渥よ弥陀
の名号に功徳ありしやうにおなじくなられや　答曰佐の
ごとく観世音は。この経法妙華之ほの名をもて称るり。
而方十万億土より霊山會場へ来り給ひく。
釈尊之ほの身中へ。入り給ひて妙法と賞妙法と
頌よいくぐき妙法之普門よ高く妙法とり
三十三身よ遍宿生之苦とすくい給ふ也。経
文には観八之巻普門品云妙法蓮花経観世音
菩薩普門品云同文観音妙智力能救世間苦厄

加〳〵入〳〵れ給ふ。観世音。妙法とて
生れ給ふ。苦とをとくひ給ふ。経文明
なれば。ぶさにやふの乃ぐ法なるの類ハ〳〵れ
さぐは観八之巻観音品ほの乃ぶ天台ほの釈。観音云
義同両観之書と也。境ん。観ん。
名号ふく。賞ん。とひ〳〵きぐ名号とり〳〵ぐ生乃
苦とぐくひ給ハぐ。経経よ。
三部経ごとく。一切乃法経ふ全芝云。経経よ
まつぐ。類ゆくるのまくは。二部経ふまてハ方
十万億土之弥陀の世界ふ。今霊山よりてハ釈尊之

上

仏弟子法花を行者也。月氏漢土我朝三国よりの数
たくさんまるハ軟なれ少分子法花の経の説者なり。
かゝるのゆへとハ、ゆくゆくんぞ説者なれ名と
唱ハ法の雑とのゝれ法華経の説者之道理
愚智ともに文殊之智恵。提婆が悪心。龍女之道理
ともに一切衆生の益よつゐでハ三量
ハ五天竺第一の悪人と
軟なるよ敵と作ゆくあゝ。霊山ハ小門と踊ハ
云同地獄ハ多のとゝりえんと花人ハ皆仏たちまち
よ悪人の意とひるがへさせ善心とす。法花経よ

入ゆ皆悪。成仏せさせ行ゆ花ハ大悪人ゆ教ゆる之
法花とゆくゆくハ善と道引行ゆ花ハ
五天竺第一之悪人と成ゆ花ハ
仏よ成て花と法人ハ皆仏ハ法花よ来善明ゆ来と
成仏せさせ行ゆ花ハ悪智ふたゝ法花よ入ゆ花
と道引行ゆ花ハ文殊ハ智恵とゆくゆく道引ゆ
相観者ハ三十三身よ月と変ん。我名と唱ハ
ゆくゆく皆ハ法雑とのゝれ法花とかゝるんとゝ
行ゆハ法花よ入ゆゆき花と道引て法花よ入ゆ如
我等ゆ異之ゆくりと用ゆせんなめゆ説者

かたちんうるぐ。法花とたりたるなり。法花と
さ一亟。說世言と会し。法ハ花。のとて利生ぐ
りや。未實。又法花の影同。弥陀妙来ハ名号ふ
揚ぐる義分と。爲辯ぜん。量妙。今略して
花といぐ。言義之一ま云。此妙法蓮華經共ち地甚
深之奥蔵三世如来之所證得也云云法花影同是。
弥佛世号ハ大悟大覚乃本法也。弥佛花と究て
十號と具足。菩薩花と俱ちぐ。法花よのぐる。
もそ。三世の弥佛。得之。法華也と宣ぐり。
弥陀妙来と。中にいまます。妙法の得道起ぐ

為ぐ。ぐず。妙法花。言始性ぐ。実相本覚不変の
ぐ。ぐよとそ言始言終。不来不去。有佛。言佛性相
常住ハ。妙也。何弥陀ハ三字ハ十劫正覚の妙来
の名号ぐハなとぐ。ぐ。ぐ。

指く方法理体之三諦円融之妙法より萬が一たく
らへ[illegible]いふ況[illegible]陀之三字と理開ちく宣假
中に対為して歴別之相ふあるべや妙法の法佛
也乃ち懷也いづまれ名号とて
つたためし出世ちふ佛ありやこと陀羅尼
の安樂世界の教主ちふ陀と妙法の化道よりの
自然乃名号とぞくづきたためまハあるべず當ちを
陀の名号ハ法佛ち懷之ちりなりなんぞ一乗
実相乃妙法ふなぐんや法花経自ハ己心三諦
本覚之作之三德之身よちく全心外之法ハ

ちくて円理自体之體性天真獨朗之本法三法
妙之中心法妙也陀羅尼乃名号ハ西方十万億
土安養世界之教主ハ別名也自己本覚之三身
之作之妙法と同ち他佛名号用ひ法ふ基
ち可也ち相のちと結合あれちく

論語曰ハ邊則力輝除

[illegible]